

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年3月16日

【四半期会計期間】 第50期第2四半期(自平成29年11月1日至平成30年1月31日)

【会社名】 株式会社明豊エンタープライズ

【英訳名】 MEIHO ENTERPRISE Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 梅木 隆宏

【本店の所在の場所】 東京都目黒区目黒二丁目10番11号

【電話番号】 03(5434)7653

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 管理部長 安田 俊治

【最寄りの連絡場所】 東京都目黒区目黒二丁目10番11号

【電話番号】 03(5434)7653

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 管理部長 安田 俊治

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第49期 第2四半期 連結累計期間	第50期 第2四半期 連結累計期間	第49期
会計期間		自 平成28年8月1日 至 平成29年1月31日	自 平成29年8月1日 至 平成30年1月31日	自 平成28年8月1日 至 平成29年7月31日
売上高	(千円)	3,290,284	6,333,489	7,496,866
経常利益	(千円)	220,944	1,254,293	536,203
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	(千円)	189,090	1,117,095	747,294
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	192,177	1,120,907	752,991
純資産額	(千円)	2,482,787	3,697,444	3,043,600
総資産額	(千円)	7,739,602	9,834,648	8,495,863
1株当たり四半期(当期)純利 益金額	(円)	7.67	45.74	30.30
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	31.9	37.5	35.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,585,450	648,808	1,472,029
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	6,131	474,374	4,929
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,933,101	102,658	1,970,546
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,378,437	1,599,875	1,528,100

回次		第49期 第2四半期 連結会計期間	第50期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成28年11月1日 至 平成29年1月31日	自 平成29年11月1日 至 平成30年1月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	6.14	13.58

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、免税事業者に該当し税込方式を採用している連結子会社を除き、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善が続く中で、個人消費の持ち直しや好調な企業収益を背景に景気の回復基調は継続しております。一方、海外経済においては経済・金融政策に関する不確実性による影響などに留意する必要性があり、引き続き不透明な状況が続いております。

当社グループの属する不動産業界においては、地価の上昇基調が継続する中で、販売価格の高騰が懸念されたものの、日銀の金融緩和政策を背景に実需は底堅い動きを示しており、事業環境は概ね良好であります。

このような事業環境下、当社グループは、既存の保有資産について最善と思われる出口戦略・販売計画を実行し、収益性の維持と早期回収を睨みながら財務基盤の安定に努めるとともに、収益不動産及び新規事業等の用地仕入・開発・販売活動を積極的に進め、当第2四半期連結会計期間におきまして、「ミハス浦安」（千葉県浦安市）、「ミハス市川」（千葉県市川市）、「ミハス三軒茶屋」（東京都世田谷区）、「ミハス西落合」（東京都新宿区）など都心近郊におきまして4棟の引渡しを完了いたしております。また、中古物件リニューアル再販事業として、京都府京都市中京区において共同住宅を宿泊施設にコンバージョンし、引渡しをいたしております。

その結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は63億33百万円（前年同四半期比92.5%増）、営業利益13億25百万円（前年同四半期比355.9%増）、経常利益12億54百万円（前年同四半期比467.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益11億17百万円（前年同四半期比490.8%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

[不動産分譲事業]

不動産分譲事業においては、アパート開発事業である「MIJAS（ミハス）」シリーズを4棟売却、中古物件リニューアル再販事業において1棟の引渡しを行いました。その結果、売上高は52億5百万円（前年同四半期比134.7%増）、セグメント利益は12億87百万円（前年同四半期比377.6%増）となりました。

[不動産賃貸事業]

不動産賃貸事業においては、プロパティーマネージメント報酬等により、売上高は9億62百万円（前年同四半期比2.0%増）、セグメント利益は1億1百万円（前年同四半期比42.1%増）となりました。

[不動産仲介事業]

当第2四半期連結累計期間において、不動産仲介事業における仲介報酬等の発生はありません。

[請負事業]

請負事業につきましては、工事請負の施工及びリフォーム工事等により、売上高は1億61百万円（前年同四半期比53.9%増）、セグメント利益は15百万円（前年同四半期比107.2%増）となりました。

[その他]

その他につきましては、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に保険代理業等により、売上高は16百万円（前年同四半期比38.4%増）、セグメント利益は16百万円（前年同四半期比39.4%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ、13億38百万円増加し、98億34百万円となりました。これは、新規開発事業用地・中古マンション等再販事業物件等の取得により販売用不動産及び仕掛販売用不動産が合計で7億14百万円増加したこと、事業用資金の貸付けが4億75百万円増加したこと等によるものです。

また、負債においては、前連結会計年度末に比べ6億84百万円増加し、61億37百万円となりました。これは、物件売却等に伴う返済によって短期借入金10億2百万円減少いたしましたが、新規開発事業用地等の取得資金として、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む。以下同様。）が13億77百万円増加したこと等によるものです。

純資産においては、前連結会計年度末に比べ6億53百万円増加し、36億97百万円となり、自己資本比率においては、前連結会計年度末より1.8ポイント好転し、37.5%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前年同四半期連結累計期間末に比べ2億21百万円増加し、15億99百万円となりました。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益により12億54百万円増加、たな卸資産の増加により7億15百万円減少したこと等により、6億48百万円の収入(前年同四半期連結累計期間は15億85百万円の支出)となりました。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

投資活動によるキャッシュ・フローは、事業用資金の貸付けにより4億75百万円減少したこと等により、4億74百万円の支出(前年同四半期連結累計期間は6百万円の収入)となりました。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

財務活動によるキャッシュ・フローは、開発事業用地等取得のための資金として、長期借入金21億92百万円増加したものの、自己株式を取得したことにより4億67百万円減少し、また、物件売却等に伴い短期借入金10億2百万円及び長期借入金8億14百万円それぞれ返済によって減少したこと等により、1億2百万円の支出(前年同四半期連結累計期間は19億33百万円の収入)となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6)生産、受注及び販売の実績

当社グループの不動産分譲事業は、建物の竣工後、購入者へ引渡しが行われる際に売上高が計上されるため、開発時期や工期等により四半期ごとの売上実績に偏向が生じる傾向にあります。当第2四半期連結累計期間のセグメント別業績の前年同四半期比増減率は次のとおりであります。

[連結セグメント別業績]

セグメントの 名称		当第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)	
		金額(千円)	前年同四半期比増減率(%)
不動産分譲事業	共同事業物件		100.0
	自社単独物件	5,205,490	200.2
	小計	5,205,490	134.7
不動産賃貸事業		962,224	3.1
不動産仲介事業			100.0
請負事業		149,124	62.6
その他		16,650	38.4
合計		6,333,489	92.5

(注)1.セグメント間取引については、相殺消去しております。

2.不動産分譲事業における共同事業物件の売上高は、各物件の総売上高に対し当社グループ事業シェアに応じた当社グループの売上高であります。

(7)主要な設備

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	98,644,000
計	98,644,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年1月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年3月16日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	24,661,000	24,661,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	24,661,000	24,661,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年11月1日～ 平成30年1月31日		24,661,000		100,000		

(6) 【大株主の状況】

平成30年1月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ハウスセゾン	京都府京都市上京区河原町通今出川下る2丁目 栄町364番地	12,953	52.53
株式会社明豊エンタープライズ (注)	東京都目黒区目黒2丁目10番11号	1,047	4.25
株式会社はーとふるセゾン	京都府京都市上京区河原町通今出川下る2丁目 栄町364	900	3.65
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目9番1号	381	1.54
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNY GCM CLIENT ACCOUNTS M LSCB RD (常任代理人 株式会社三菱東京 UFJ銀行)	1 CHURCH PLACE, LONDON, E14 5HP UK (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号 決済事業 部)	350	1.42
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋1丁目9番1号	302	1.23
SBI証券株式会社	東京都港区六本木1丁目6番1号	301	1.22
田中 国雄	東京都葛飾区	291	1.18
CREDIT SUISSE SECURITIES (EUROPE) LIMITED MAIN ACCOUNT (クレディ・スイス証券株式会社)	ONE CABOT SQUARE LONDON E14 4QJ (東京都港区六本木1丁目6番1号 泉ガーデンタ ワー)	289	1.18
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW (株式会社みずほ銀行決済営業 部)	5TH FLOOR, TRINITY TOWER 9, THOMAS MORE STREET LONDON, E1W 1YT, UNITED KINGDOM (東京都港区港南2丁目15番1号 品川インター シティA棟)	195	0.79
計		17,012	68.99

(注)当社が保有する自己株式であります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			(注)3
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,047,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 23,612,500	236,125	
単元未満株式	普通株式 1,400		
発行済株式総数	普通株式 24,661,000		
総株主の議決権		236,125	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が400株含まれております。
「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれております。
2. 単元未満株式には当社所有の自己株式60株が含まれております。
3. 平成29年8月1日付で第一種優先株式8,707株を取得し、同日付でそのすべてを消却しております。

【自己株式等】

平成30年1月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社明豊エンタープライズ	東京都目黒区目黒二丁目 10番11号	1,047,100		1,047,100	4.25
計		1,047,100		1,047,100	4.25

- (注) 1. 上記の株式数には、「単元未満株式」60株は含めておりません。
2. 当社は、平成29年12月15日開催の取締役会決議に基づき、当第2四半期会計期間において、東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による買付けを行い、当社普通株式1,046,800株を取得いたしました。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成29年11月1日から平成30年1月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年8月1日から平成30年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、明治アーク監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,558,814	1,632,970
売掛金	40,502	105,397
販売用不動産	1,008,169	2,413,994
仕掛販売用不動産	4,536,114	3,844,680
繰延税金資産	337,709	340,387
その他	125,448	611,095
貸倒引当金	644	3,062
流動資産合計	7,606,115	8,945,462
固定資産		
有形固定資産	13,577	16,143
無形固定資産	3,434	3,076
投資その他の資産		
投資有価証券	55,308	59,949
長期貸付金	436,964	430,408
長期未収入金	422,800	421,500
その他	227,669	228,113
貸倒引当金	270,005	270,005
投資その他の資産合計	872,736	869,965
固定資産合計	889,748	889,185
資産合計	8,495,863	9,834,648

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	179,762	181,509
短期借入金	2,779,200	1,776,705
1年内返済予定の長期借入金	1,273,266	2,010,116
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
リース債務	695	532
未払法人税等	2,825	139,504
賞与引当金	34,270	18,802
その他	311,608	513,294
流動負債合計	4,601,627	4,660,465
固定負債		
長期借入金	552,912	1,193,304
社債	70,000	60,000
リース債務	180	-
その他	227,542	223,434
固定負債合計	850,634	1,476,738
負債合計	5,452,262	6,137,203
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,582,685	1,495,610
利益剰余金	1,333,492	2,450,588
自己株式	485	380,474
株主資本合計	3,015,691	3,665,724
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,637	19,662
その他の包括利益累計額合計	16,637	19,662
非支配株主持分	11,271	12,057
純資産合計	3,043,600	3,697,444
負債純資産合計	8,495,863	9,834,648

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)
売上高	3,290,284	6,333,489
売上原価	2,571,412	4,525,694
売上総利益	718,871	1,807,795
販売費及び一般管理費	428,028	481,934
営業利益	290,842	1,325,860
営業外収益		
受取利息	247	5,400
違約金収入	458	-
ポイント引当金戻入益	552	-
その他	971	986
営業外収益合計	2,230	6,386
営業外費用		
支払利息	43,347	49,805
支払手数料	24,655	26,988
その他	4,125	1,158
営業外費用合計	72,128	77,952
経常利益	220,944	1,254,293
特別損失		
貸倒引当金繰入額	6,750	-
特別損失合計	6,750	-
税金等調整前四半期純利益	214,194	1,254,293
法人税、住民税及び事業税	2,488	139,518
法人税等調整額	21,254	3,106
法人税等合計	23,743	136,411
四半期純利益	190,450	1,117,881
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,360	786
親会社株主に帰属する四半期純利益	189,090	1,117,095

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)
四半期純利益	190,450	1,117,881
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,727	3,025
その他の包括利益合計	1,727	3,025
四半期包括利益	192,177	1,120,907
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	190,817	1,120,121
非支配株主に係る四半期包括利益	1,360	786

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	214,194	1,254,293
減価償却費	2,365	2,417
貸倒引当金の増減額(は減少)	6,658	2,418
受取利息及び受取配当金	267	5,419
支払利息及び社債利息	43,347	49,986
賞与引当金の増減額(は減少)	29,082	15,467
売上債権の増減額(は増加)	16,983	64,894
たな卸資産の増減額(は増加)	1,733,848	715,118
仕入債務の増減額(は減少)	19,375	1,747
前受金の増減額(は減少)	554	178,093
預り金の増減額(は減少)	34,663	35,323
その他	42,024	27,904
小計	1,491,109	695,475
利息及び配当金の受取額	267	150
利息の支払額	48,591	47,549
法人税等の支払額	46,118	3,064
法人税等の還付額	102	3,795
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,585,450	648,808
投資活動によるキャッシュ・フロー		
その他預金等の預入による支出	5,282	2,380
その他預金等の払戻による収入	15,930	-
ゴルフ会員権の取得による支出	1,888	-
有形及び無形固定資産の取得による支出	3,440	5,023
有形及び無形固定資産の売却による収入	-	253
貸付けによる支出	-	475,000
貸付金の回収による収入	843	7,876
出資による支出	30	100
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,131	474,374
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,768,775	1,002,494
リース債務の返済による支出	323	342
長期借入れによる収入	1,194,000	2,192,200
長期借入金の返済による支出	1,127,350	814,958
社債の償還による支出	-	10,000
社債の発行による収入	100,000	-
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	2,000	-
自己株式の取得による支出	-	467,063
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,933,101	102,658
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	353,783	71,775
現金及び現金同等物の期首残高	1,024,653	1,528,100
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,378,437	1,599,875

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費

主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)
給与手当	147,067千円	163,046千円
賞与引当金繰入額	9,303千円	18,802千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)
現金及び預金	1,408,071千円	1,632,970千円
現金及び現金同等物に含めない その他預金等	29,634千円	33,094千円
現金及び現金同等物	1,378,437千円	1,599,875千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成29年6月22日開催の取締役会決議により、当社定款第11条の6の規定に基づき、自己株式8,707株を取得したため、当第2四半期連結累計期間において自己株式が87,074千円増加いたしました。

また、平成29年6月22日開催の取締役会決議に基づき、平成29年8月1日付で自己株式8,707株の消却を実施したため、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金及び自己株式がそれぞれ87,074千円減少いたしました。

さらに、平成29年12月15日開催の取締役会決議に基づき、平成29年12月18日付で自己株式1,046,800株を取得したため、当第2四半期連結累計期間において自己株式が379,988千円増加いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間において、資本剰余金が87,074千円減少、自己株式が379,988千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が1,495,610千円、自己株式が380,474千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年8月1日 至 平成29年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注3)	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	不動産分譲 事業	不動産賃貸 事業	不動産仲介 事業	請負事業	計				
売上高									
外部顧客に対する売上高	2,218,281	933,115	35,131	91,721	3,278,250	12,034	3,290,284		3,290,284
セグメント間の内部売上 高又は振替高		10,046		13,344	23,391		23,391	23,391	
計	2,218,281	943,161	35,131	105,066	3,301,641	12,034	3,313,675	23,391	3,290,284
セグメント利益	269,530	71,538	33,230	7,439	381,738	11,592	393,331	102,488	290,842

(注) 1. セグメント利益の調整額 102,488千円は、セグメント間取引消去 5,124千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 97,364千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に保険代理業を含んでおりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年8月1日 至 平成30年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注3)	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	不動産分譲 事業	不動産賃貸 事業	不動産仲介 事業	請負事業	計				
売上高									
外部顧客に対する売上高	5,205,490	962,224		149,124	6,316,839	16,650	6,333,489		6,333,489
セグメント間の内部売上 高又は振替高				12,615	12,615		12,615	12,615	
計	5,205,490	962,224		161,740	6,329,454	16,650	6,346,105	12,615	6,333,489
セグメント利益	1,287,244	101,628		15,417	1,404,289	16,157	1,420,447	94,586	1,325,860

(注) 1. セグメント利益の調整額 94,586千円は、セグメント間取引消去 3,846千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 98,433千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に保険代理業を含んでおりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)
1株当たり四半期純利益金額 (円)	7.67	45.74
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	189,090	1,117,095
普通株主に帰属しない金額 (千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	189,090	1,117,095
普通株式の期中平均株式数 (千株)	24,660	24,421
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年3月14日

株式会社明豊エンタープライズ
取締役会 御中

明治アーク監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 木 村 ゆりか 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 藤 本 幸 宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社明豊エンタープライズの平成29年8月1日から平成30年7月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成29年11月1日から平成30年1月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年8月1日から平成30年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社明豊エンタープライズ及び連結子会社の平成30年1月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。